

IPS理念に基づいた支援の効果 ～自立訓練と就労移行支援の事例を通して～

○佐藤亜沙美¹ 小野寺瑛夏¹ 高橋 由佳¹ 小野 彩香¹

¹ 認定特定非営利活動法人Switch

はじめに

認定特定非営利活動法人Switchは精神疾患や様々な困難がある方へのリカバリーの支援をしている団体である。

IPS (Individual Placement and Support) の支援モデルを参考にしており、本人の興味を大切にし、さらに興味を持った物に対して行動に移す事をサポートしている。

目的・方法

当法人の運営する障害福祉サービス事業所は、自立訓練事業所スイッチ・イシノマキと就労移行支援事業所スイッチ・センダイがある。今回は二事業所の事例を取り上げ、「本人の興味を大切にする」という共通のIPS理念に基づいて支援する事でどのような効果や課題があるかを検討していく。対象者には本研究の目的と内容を説明し、同意を得ている。

結 果

事例1 自立訓練50代統合失調症Aさん

課題：自分の行動にストップをかけてしまう

→「農作業に行きませんか」と誘ってももらなかったが、本人はトマトが好きなので「トマトの苗を見に行ってみませんか」と誘い方を変えた。

→農園に足を運ぶようになった。その中で自分のできる事を発見し、できないと思っていた事にも挑戦できた。

今後の課題：本人の興味をきっかけに活動の幅は広がったが、目標に向けて必要だけれど苦手な事に対しては避けてしまう傾向がある。その点を本人と共有し次のステップへと繋げていく必要がある。

事例2 就労移行支援20代統合失調症Bさん

課題：興味が次々と変わりその時の興味に従って行動してしまう

→その時の本人の興味に沿った情報を提供。思考が偏ってしまった時は考え方の幅を広げられるようサポートした。

→本人の興味を大切にすることで信頼関係が構築でき、相談や自身での思考の整理もできるようになった。現在は自分に合った職場を見つけ、必要に応じて相談しながら仕事を継続できている。

今後の課題：基本的には本人の興味を大切にするが、状況によっては支援者が本人の目標を再確認し、適切と思われる方向に導く必要もあると感じる。

考 察

今回事例に挙げた二名はIPS理念に基づいた支援を受け、自身の興味に従って行動する事で良い変化があった。サービスの枠や本人の特性そして支援者が異なっても、IPS理念を軸にする事で本人が前に進む力を引出せると考える。また、支援者自身がIPS理念に基づいた支援の効果を実際に目にする事が、支援者が本人の可能性を信じる事や本人の背中を押す勇気に繋がっていくと考える。